

# 「第1回 気象サイエンスカフェ in かごしま」開催報告

海と空はつながっている！ 黒潮と天気のコミツ  
～ 鹿児島島の自然と生物に黒潮が与える恵み ～

高橋 隆三（鹿児島地方気象台）

## 1. はじめてのサイエンスカフェ

日本気象学会九州支部では、これまで福岡市で4回開催してきましたが、ここ鹿児島市では初めてとなります。日本気象学会九州支部、日本気象予報士会鹿児島支部、そして鹿児島地方気象台による共催で実施しました。平成26年2月1日（土）に天文館のカフェレストラン「シンケンスタイルキッチン」での開催でした。

話題提供者は、鹿児島大学の中村啓彦氏（なかむらひろひこ：水産学部水産学科水産生物・海洋学分野准教授）で、テーマは地元に着した「黒潮と天気のコミツ ～鹿児島島の自然と生物に黒潮が与える恵み～」でした。

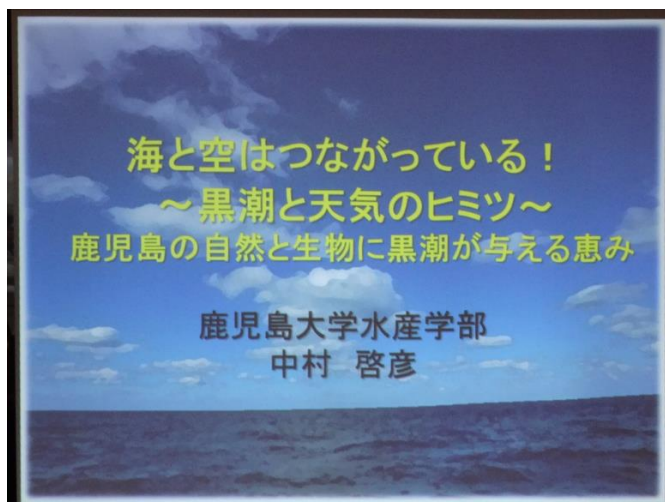
ファシリテータは、予報士会所属の鹿児島島のテレビ局で活躍している大山有布佳キャスター（MBC）と渡司陵太キャスター（KTS）のダブルキャストと豪華でした。

## 2. 当日の様子

会場は事前申し込みの30名と予報士会の気象キャスターの面々も駆けつけ、満員の状態でした。いよいよ開演。主催者を代表して横山理事（台長）が挨拶し、そしてゲストとファシリテータにバトンタッチします。

中村先生の専門は海洋物理学で、黒潮の蛇行形状・流路・流速分布などの変動メカニズム、沖縄トラフの中深層水の循環メカニズム、東シナ海から日本南岸の黒潮が大気に及ぼす影響などについて研究しています。今回は天気や水産資源などの切り口で、黒潮と、私たちの日々の生活とのかかわりについて話題を提供していただきました。

まずは唱歌「椰子の実」から始まり、遠い島から伊良湖岬に流れ着いた椰子の実を詠ったものですが、そこから黒潮の流路・速度、世界各地の海流、熱輸送など、その特徴やしぐみの説明へと自然に進んでいきます。そして、黒潮が日本付近まで膨大な熱を運んで放出していること、環太平洋地域の気象と海洋の間で数十年周期で起きる変動やマイワシ漁獲量との関係、黒潮が直進しているときと大蛇行しているときで、日本や鹿児島島の気象や気候に与える影響の違いの考察など、専門的な話に進みます。



写真：サイエンスカフェ当日のスライド1枚目



写真：鹿児島大学 中村啓彦 先生



会場は参加者の半数が女性という華やいだ雰囲気、中村先生の豊富な知識や、大山キャスター、渡司キャスターの巧みな司会進行のもと、ご婦人の参加者が椰子の実を唱和され、時折クイズも交えながら、和やかな雰囲気、盛況のうちにイベントは無事終了しました。

写真：インタビューする渡司ファシリテータ

### 3. アンケートの結果及び今後の開催について

小学生から60代以上と幅広い年齢層の参加者で、全体的に満足度が高く、また感想として「黒潮の流れの影響が大気に大きな影響を及ぼすことが分かりました」、「流れ着いた漂流者が何処から来たか？という話題が面白かったです」、「楽しく勉強になりました」、「とても面白かったです。楽しかったのでまた来たいです」など…多数の方から好意的な意見がありました。

今回は鹿児島市で初めての開催で、予報士会と気象学会及び気象台との連携がうまく行われたことが成功したポイントと思われれます。特に、ファシリテータをお忙しい2人のキャスターに受けていただき、事前の打ち合わせも3回にわたって中村先生と行うことができました。



今後に取り上げてもらいたいテーマとして、「台風」、「風水害」が圧倒的に多く気象災害の多発している鹿児島県の特徴と言えるでしょう。「地球環境問題」も8人と多く温暖化に関心が高いことを反映したものとなりました。

次回もぜひ開催できるようお互いの連携を深めたいと思いました。



写真：上 会場の風景と中村先生  
(手前右はKKB北崎アナ)  
下 コーヒー(500円)



写真：上1 シンケンスタイルのパノラマ風景（TV取材右側）  
上2 大山（右側）・渡司両ファシリテータ

下1 横山理事（台長）挨拶  
下2 講演中の風景（中村先生とファシリテータ）

